

1974年に設立され、千葉県船橋市の本社を中心に、東京・横浜・大阪・徳之島に情報処理サービスを提供する事業拠点を構える日本企画株式会社。同社は「社員こそが会社の財産」と考え、主力事業のIT開発や運用で500社を超える顧客から絶大な信頼を得ている。また、数年前から情報セキュリティ分野に注力した事業も展開してきた。そして、社内のセキュリティ対策を強化するためにIntercept Xを導入し、XG FirewallによるSynchronized Securityへの取り組みも開始した。

## CUSTOMER-AT-A-GLANCE

 日本企画株式会社

## 日本企画株式会社

**本社所在地** 〒273-0005 千葉県船橋市本町6丁目21番16号  
**営業拠点** 東京オフィス、大阪支店、横浜支店、徳之島リゾート&オフィス  
**会社設立** 1974年4月  
**代表者** 代表取締役社長 利 哲雄  
**資本金** 3億2000万円  
**事業内容** 開発・運用・基盤ソリューション、サービスデスク、ITスタッフ派遣、情報セキュリティ対策コンサルティング

**社員数** 782名(2020年12月31日現在)

**売上高** 50.5億円(2020年度)

**webサイト**

<https://www.nkcnet.co.jp/>

**ソフォスソリューションズ**

Sophos Intercept X



ソフォスのセキュリティソリューションにより、ウイルスの検知率向上と運用コストや負担の低減という大きな成果を得られました。

日本企画株式会社  
経営統括本部 情報システム部  
佐々木功 部長

ITの開発・運用・基盤ソリューションから、サービスデスクやITスタッフ派遣などの事業を展開する日本企画株式会社。同社は、情報セキュリティソリューション事業にも注力してきた。独自のノウハウにより「理解しやすい」「運用しやすい」「費用対効果が見える」セキュリティソリューションで、導入や教育に運用・管理などのサービスを提供している。そして、同社内でも情報セキュリティ対策を強化するために、サーバー更新をきっかけとしてソフォスのIntercept Xを導入した。さらに、追加でXG Firewallも採用しSynchronized Securityへの取り組みを加速している。

## ビジネスチャレンジ

「オンプレミスのサーバーに依存するエンドポイント製品の限界」

日本企画株式会社がソフォスのIntercept Xを導入した背景について、経営統括本部情報システム部の佐々木功部長は、次のように振り返る。

「以前に利用していたエンドポイントセキュリティ対策製品は、オンプレミスのサーバーでシステムを運用する必要がありました。そのため、クライアントPCのパターンファイルを更新するためには、社内のイントラネット

への接続が必須となっていました。柔軟な働き方を実践していくためには、オンプレミスのサーバーに依存するセキュリティ対策には、限界があると感じていました。その課題を抱えているときに、サーバーを更新する時期が迫っていて、そのままバージョンアップするか、他のセキュリティソリューションを探るか、決断を迫られていました」

旧エンドポイントセキュリティ製品の継続利用には、さらなる課題もあった。それはコストの問題だった。佐々木氏は「更新にあたり見積もりを依頼したところ、ライセンス料が高くなっていました。サーバー更新と合わせると、かなりの出費になるので、それならばより

コストパフォーマンスに優れ、サーバーに依存しないセキュリティソリューションはないかと、リサーチを開始しました」と補足する。オンプレミスのサーバー依存から脱却し、コストの低減と柔軟な働き方に対応したセキュリティ対策を実施するために、同社の情報システム部ではクラウドサービスに対応した製品の検討をスタートした。

## テクノロジーソリューション

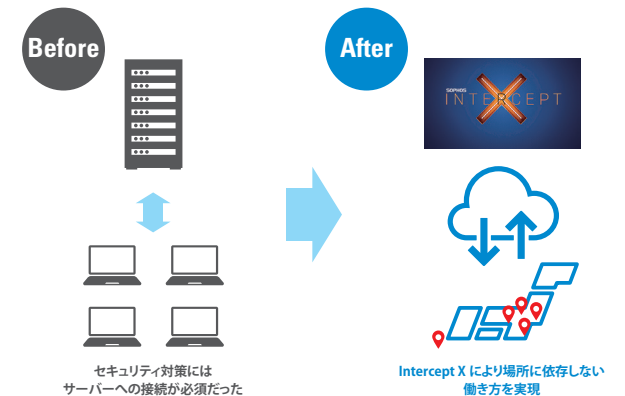
「先行する顧客案件からIntercept Xの高いセキュリティ性能を検証」



日本企画株式会社  
営業統括本部 技術推進部  
鈴木 部長

同社の営業統括本部技術推進部でIntercept Xの検証に携わってきた鈴木部長は、選定の理由を次のように説明する。「社内でエンドポイントセキュリティ更新の検討が始まる少し前に、お客様からセキュリティ対策を強化したい、というご相談を受けていました。そのお客様が以前から使われていたエンドポイントセキュリティ製品が、不審なメールからのウイルス感染を防げなかったため、当社のセキュリティソリューション部門に相談が入ったのです。そこで、当社でも入れ替えを検討していたIntercept Xを提案することにしました」数多くのセキュリティソリューションを検証してきた鈴木氏は、Intercept Xの提案にあたりいくつかのポイントに注目した。それは「ソフォスが自社製品に対して、ものすごく自信を持っている点を評価しました。何よりも、検知率の高さを誇っている性能面に注目しました。また、すべての運用監視をクラウドでマネジメントできる点も、お客様に提供する上で有利でした」と鈴木氏は評する。検知率の高さやクラウドによるサーバー不要な運用と、すべての管理をクラウドで処理

できる利便性から、顧客へのIntercept X導入が推進された。その結果「お客様への提案を通して、当社でも安心してIntercept Xが利用できると判断し、旧エンドポイント製品からの更新を決めました」と鈴木氏は振り返る。



## 導入の成果

「ウイルス検知率が大幅に向上し現場のセキュリティ意識も高まる」

Intercept Xの導入は、情報システム部の市原崇行チーフが中心となり、国内各拠点でのインストールを推進した。その経緯に

ついて市原氏は「インストールはとても簡単で、短時間で作業できました。今回は、大阪や横浜などにも出向いて作業しましたが、現場でもスムーズに導入できて、大きなトラブルもなく予定したスケジュールで更新を完了しました」と話す。



日本企画株式会社  
情報システム部  
市原崇行チーフ

導入後の効果についても市原氏は「導入直後は、複数のアラートがあがりIntercept Xが自動的に対処していました。おそらく、以前のエンドポイント製品では検知し切れなかった驚異が、Intercept Xによって正しく検知され処理されたのだと思います。導入からしばらくすると、アラートもほとんど上がらなくなりました」と評し「また、運用管理も

とても楽になりました。以前は、何かアラートが上がってきたら、サーバー側の管理システムをウェブ画面から確認する必要がありました。それに対して、Intercept XはクラウドサービスのSophos Centralで一元的に運用監視ができるので、管理者の負担や手間が大幅に低減されました」と補足する。そして、Intercept Xによるセキュリティ対策の社内的な効果についても「旧エンドポイント製品は、アラートがクライアントには通知されませんでした。それに対して、Intercept Xはクライアントにも通知し

てくれるので、現場のユーザーもセキュリティ対策が機能しているという安心感が増し、日々気をつけようという意識も高くなりました」と市原氏は成果を語る。

さらに、経営的な視点から佐々木氏は「旧エンドポイント製品からIntercept Xへ移行したことで、ライセンス料やサーバーの維持管理にかかる経費が不要になり、トータルで50%ほどの削減につながったと思います」とコスト面での効果に触れる。



## 今後の展望

「XG FirewallによるSynchronized Securityも活用し蓄えたノウハウを顧客に提案」

Intercept Xによる確かなセキュリティ対策の効果を得られた日本企画の情報システム部では、さらなる対策の強化も図っている。佐々木氏は「FirewallもXGS 2100にリプレースして、ソフォスのSynchronized Securityによるサイバーリスクの削減に取り組んでいきます」と話す。また、セキュリティ事業の強化と発展を計画している同社では、営業統括本部 ソリューション



日本企画株式会社

営業統括本部 ソリューション営業部 西日本  
グループ サブマネージャー 南健斗氏

営業部西日本グループサブマネージャーの南健斗氏が中心となって、自社で蓄積したセキュリティ対策のノウハウを広く顧客にも提供していく考えだ。南氏は「ソフォスのIntercept Xは、検知率の高さやウイルス対策の実績と信頼度という点から、他社製品よりも優れていると判断して、当社で採用しました。当社の主力事業は、IT開発やソリューション提供ですが、今後は、自社のサービスにソフォスのセキュリティソリューションを組み合わせ、お客様により安心してご利用いただけるトータルソリューションを提供していきたいと考えています」と話す。さらに「Sophos Centralによる運用監視を当社がお客様から請け負う形で、人手不足とセキュリティ対策の強化に悩むお客様の課題も解決していけると思います。将来的には、24時間365日で運用監視する体制を整えて、お客様の環境をSophos Centralを通してトータルで監視できるサービスの提供も計画しています」と南氏は今後に向けた展開を語る。

